

## ■建築 CAD 演習Ⅱ 3DCAD 入力に必要な情報（収集する図面のポイント）

□見てみたい建築、行ってみたい建築を選ぶこと。（せっかく勉強するなら好きな建築（興味を持った建築）を選んでほしい。）

- ・図面を読み込む（理解する）、頭の中で空間（位置）を想像しながら入力していく（特に高さ方向の位置を把握する。プランニング（動線など）を把握する）
- ・最終的にはその建物の空間構成や材料などが把握できる⇒1つの設計事例として、身についたものとなる。⇒今後の設計などに生きてくる。

### A：外部（外観）作成のための資料を収集

- ① 平面図（できるだけ寸法の表記（又はバースケール）がある図面がよい）、方位、開口部の位置がわかる図面、スケールがわからない場合は、わかりやすい部分でスケールを割り出す。）
- ② 立面図（スケールがわかるもの、窓位置・大きさ・形状がわかるもの、スケールがわからない場合はわかりやすい部分でスケールを割り出す）
- ③ 断面図（階高がわかるもの、内部の天井高さがわかるもの、地盤面と 1FL 床高さがわかるもの）
- ④ 外観の写真（窓形状、窓高さ、周囲の状況など図面で判明しない部分の参考資料としてできるだけたくさん収集したほうがよい。）
- ⑤ 詳細図、ディテールなど材料の構成などの詳細がわかる図面  
※実際の詳細図の通り入力するとよりリアルな表現となる。
- ⑥ 敷地と建物との関係がわかるもの、配置図、道路状況がわかるサイトプランなど  
※建築の形態や窓は周囲との関係で規定される部分もあるので、敷地と道路との関係や、周囲の建物の状況などを、最終的にパースに反映したほうがより理解が深まる。

### B：内部の作り込みのための資料

- ・内部の写真、床や壁の材質がわかる資料（内部インテリアの素材付けなど、パースをよりリアルに作り込む際に参考となる資料、たくさんあったほうがよい。）

※正確に入力することができればよいが、資料によっては、難しい部分もあるので、できるだけスケール感を逸脱しないくらいで、入力をしていくことが必要。